

日刊 動力千葉

81.4.18

No. 719

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六・公衆電話三三二七二〇七

燃料輸送に積極的に協力した「本部」スト破り集団

デマ情報「動力車千葉」(ヤ2号批判) (その2)
われわれは、『本紙』(No. 715号)に引き続き、動力「本部」スト破り集団の発行した「動力車千葉」(ヤ2号)を徹底的に批判し、三月決戦闘争に終始敵対をくりかえしたひとつひとつの事実について怒りも新たに糾弾する。

◆腐りきった極反動・動力「本部」◆

動力「本部」スト破り集団は、デマ情報「動力車千葉」(ヤ2号)の「要求前進をかけた」た動力の闘いなる項において、「千葉地本再建(オ32回)大会は、オ36回全国大会決議(シモト燃料貨車輸送延長反対)に踏まえ、労働組合らしい闘いとして、運転保安・燃料列車の安全対策……を中心とした組合員の要求を基礎に、闘いを進めることを確認し」当局との交渉で「カラーテレビ、軍手、カサ」などをかちとり、「要求を前進させてきた」としている。

この中にこそ、「本部」反動分子の反動性、反労働者性の全てが明らかである。

まずオ一に、これは、オ三六回全国大会で裏切り分子・土屋粹の提案した「シモト燃料貨車輸送延長反対」なる決議が動力「本部」反動分子による「燃料列車の安全対策」要求、すなわち、燃料貨車輸送に全面的に協力するためのものであったということ、自認しているということである。「燃料列車の安全対策」要求とは何か? 「国が運べないものは、軍隊であろうと、弾薬であろうと運ぶのが国鉄の任務だ」と公言する当局と全く同一であり、燃料列車を拒否し権力・当局を糾弾する姿勢などはじめから全くないことの自己暴露以外のなにものでもない。

オ二に「燃料列車の安全」要求があたかも組合員の要求であるかのようにいいてくめて、そして組合員に対し、わが動力千葉の三月決戦ストライキに対するスト破り・裏切り行為を「労働組合らしい闘い」などとしてシモト列車の運転を当局と一体となつて強制している。このような権力・当局の尖兵としてのスト破りの代償に、「カラーテレビ・軍手・カサ」などの「要求」をか

ちとった? ことを最大限の成果として宣伝しているのである。

「動力」はいつからこのような腐り切った労働組合になってしまったのか?!

◆動力の闘う伝統を 真に継承する動力千葉◆

そもそもシモト燃料貨車輸送は、政府・空港公団が危険であるとしていた本格パイプライン建設が激しい住民運動と広範な闘いによって次々と延期される中で、われわれ国鉄労働者に危険を承知で強制されたものである。われわれは、反対同盟の十余年にわたる空港絶対反対の闘いに連帯する立場を一步すすめて、三年前に空港反対・反合・運転保安確立・燃料輸送阻止のたたかいにたち上った。

そしてこの闘いを一つの出发点として、ハンドルを自らの手に握ることをとおして逆に敵のアキレス腱を常に脅やかし、鉄路を武器にシモト燃料貨車輸送を阻止する闘い、まさに労働組合の当然の闘いとして貫徹してきたのである。

われわれはこのような闘いをおして労働条件の面においても全国有数の労働条件をかちとり、同時に強固な組織力と団結力をかちとってきたのである。

動力「本部」反動分子は、このような動力千葉に対し、「三里塚反対同盟と一線を画す」「動力千葉排除・統制処分」「四・一七型襲撃」「三月決戦スト破り」など数限りない敵対と闘争圧殺と組織破壊攻撃をくりかえしてきたのである。

全組合員の皆さん!

動力「本部」スト破り集団を絶対に許さず、国鉄三五万人体制粉碎、動力大改革運動の前進にむけ前進しよう!